

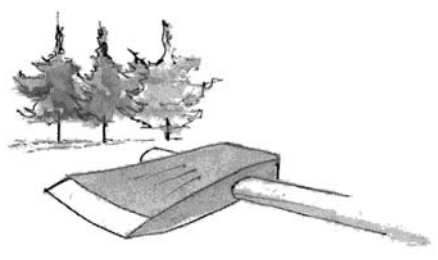
# いわみざわの民話

## 第26回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

### 昔のこと 開拓最後の斧②

兄貴分の森下勝蔵が赤タモの根に腰をかけてぼつりといった。「クサビを造っておかには」。これをきいて松本静男が「そごぞなあー」と、腰鋸をとって、いたごりを分けて川辺に降り桑の木の大枝を切り取って来てナタでクサビをけづりながら、岩田さんのナタは相変わらず切れるのうと、つぶやいた。クサビができ上がると倒口の高さ



を3人で相談をし、鋸目をいれる位置を推した。これを終ると先ず一服ぢやとあって、森下勝蔵が腰の煙草入れを抜く。岩田喜久馬もこれにならつて、きざみのつけ火を分けあつて美味そうに紫煙を流した。

森下勝蔵がぼつりとつぶやいた。この赤タモの木は俺らと共に生きてきたわい、惜しい木だが道路の邪魔になるなら仕方ないが俺たちで伐すのは情けないなあーと。すると、外の2人も無条件でほんになあーと同調した。

この3人にして見れば残念の一言に尽きるであろう。幾十年の間喜びにつけ悲しさにつけ最も手近にあるこの赤タモの木ともにながいに年月を過ごしてきた、いわば3人の開拓者の分身とあってさしつかえなかつたのである。やがて岩田喜久馬が想念を打ち払うが如く立ち上がり得意のねじりはちまきをして一升びんの水を口にふくみ、

とつた大鋸の持手にぱつときりをふきかけ、森下の兄貴やるけいに、このあたりかと大鋸を赤タモの根に当てた。つられて立ち上がった森下勝蔵と松本静男が肩を並べて岩田喜久馬の当てた鋸の位置を見定める。岩田喜久馬は地下タビの足で足もとの雑草をふみつけ、たしかめながら半円をえがくように大木に鋸目をつけていった。しばらくして、かたいわい、かたいわい、鋸を受けつけんげと息を切らしながらいうと、一番若い松本静男が、岩田さん俺ら替わるけーと、岩田喜久馬の大鋸を引きつぐ。暑い陽ざしと草いきれの木の根元で、松本静男が顔を真赤にした。ながら大鋸に力をいれてひいていった。

第27回は「昔のこと 開拓最後の斧③」を紹介します。  
※原文に沿って掲載しています。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

### ひとの動き 平成24年3月31日現在

●住民基本台帳	人	□ 総数 89,023人 (前月比 - 282)
		男 41,731人 (前月比 - 157)
		女 47,292人 (前月比 - 125)
	世帯数	42,374世帯 (前月比 - 47)

### 岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977  
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>  
 ▶ 救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153  
 ▶ 消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。